

# 新聞販売業における 労働災害防止対策

新聞販売業における主な労働災害は**交通事故**です！



交差点を通行する際は、細心の注意をはらい、左右を良く確認しましょう。

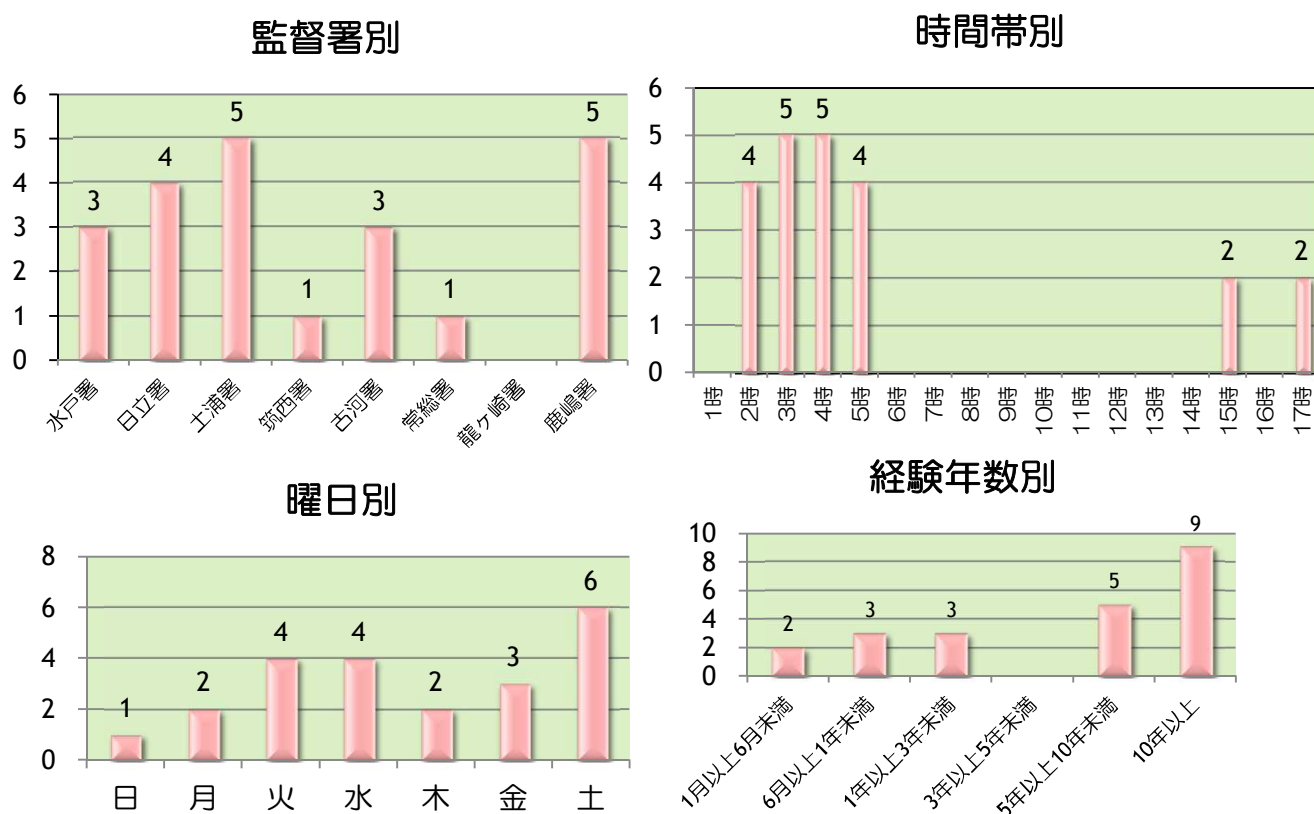
茨城労働局 各労働基準監督署

ホームページアドレス <http://ibaraki-roudoukyoku.jsite.mhlw.go.jp/>

## 新聞販売業における労働災害発生状況等について

新聞販売業における死亡労働災害の発生状況は、平成18年から平成27年までの10年間に22人が被災しており、そのすべてが交通事故による災害となっています。中でも、交差点等での出会い頭による災害は、8人と最も多くを占めています。  
(次のページ下欄参照)

死亡災害の内容は次のグラフのとおり



### 再発防止対策

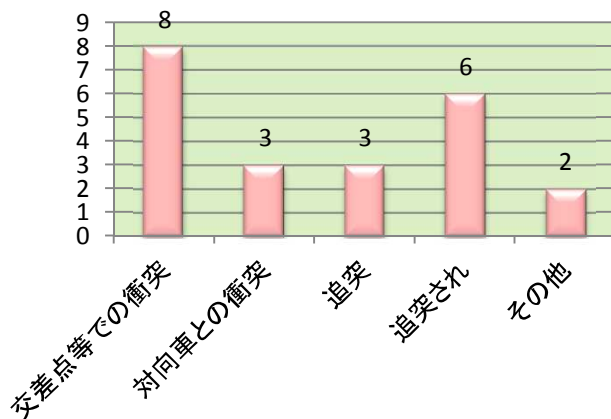
- ① 新聞配達区域の危険箇所の洗い出しによるヒヤリマップの作成及び周知
- ② 交通ルールの遵守、交通危険予知(KY)訓練、ヒヤリマップの活用等による安全教育の実施
- ③ 交差点進入時の減速及び左右確認等の安全確認の励行
- ④ バイク運転中のライトの点灯及び安全蛍光ベストの着用等目立つ格好での走行による安全の確保
- ⑤ 余裕のある配達作業時間の確保による安全行動の励行
- ⑥ 交通労働災害防止のための管理体制の確立
- ⑦ リスクアセスメントの実施

以上の項目を、事業者等の経営首脳者が中心となって、継続的・計画的に実施することで、交通労働災害を防止しましょう。

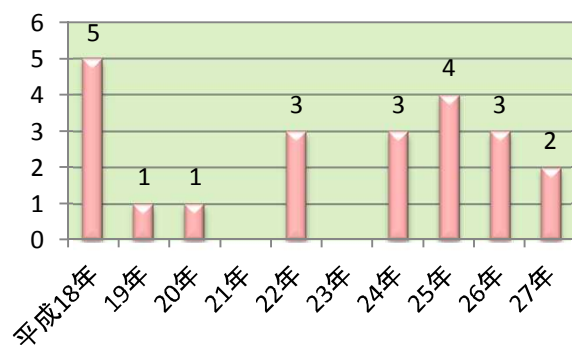
## 新聞販売業における死亡災害の概要（抜粋）

発生年 月 時間帯	職 種 年齢 経験年数	事故の型		災害の概要
		起 因 物		
平成27年 1月 4～5時	配達員 70歳代 40年	交通事故	バイク	新聞配達のため片側1車線の直線道路をバイクで走行中、後ろから乗用車に追突され、死亡した。
平成27年 12月 3～4時	配達員 60歳代 6ヶ月	交通事故	バイク	原付バイクを運転して新聞配達中、片側1車線の道路で車と衝突して死亡した。相手車はそのまま逃走した。
平成26年 7月 4～5時	配達員 70歳代 13年	交通事故	乗用車	軽ワゴン車で新聞配達中、乗用車に追突され、死亡した。
平成26年 8月 4～5時	配達員 60歳代 6年	交通事故	バイク	バイクで新聞配達中、片側2車線の右側を走行していたところ、後方から来た乗用車に追突され、死亡した。
平成26年 10月 3～4時	配達員 60歳代 13年	交通事故	バイク	原付バイクで新聞配達中、酒酔い運転の乗用車に後ろから追突され、死亡した。
平成25年 1月 5～6時	配達員 60歳代 10年	交通事故	バイク	朝刊の配達のためバイクで道路を走行中、転倒して右側前方のガードレールに衝突し死亡した。前日からの雪で路面は凍結していた。
平成25年 7月 4～5時	配達員 10歳代 3ヶ月	交通事故	バイク	新聞販売店舗にて被災者は留守番をしていた。同僚からのバイク搬送依頼の連絡を受けたため、被災者はバイクで出発し、交差点に差し掛かったところで乗用車と出会い頭に衝突して死亡した。
平成25年 8月 15～16時	配達員 60歳代 6年	交通事故	バイク	バイクにて新聞配達中、信号のない交差点内において、右から進入してきた乗用車に激突された。
平成25年 9月 2～3時	配達員 60歳代 19年	交通事故	バイク	新聞配達のためバイクを運転していたところ、対向車線を走行してきた乗用車と衝突し、死亡した。
平成24年 2月 2～3時	配達員 50歳代 10ヶ月	交通事故	バイク	原付バイクにて新聞配達中、交差点で左方向から走行してきた10トントラックと衝突し、撥ね飛ばされ死亡した。
平成24年 8月 3～4時	配達員 40歳代 7年	交通事故	バイク	原付バイクで新聞配達中、右から来た乗用車と衝突し、12日後に死亡した。
平成24年 11月 5～6時	配達員 50歳代 9年	交通事故	バイク	バイクで新聞配達中、信号のない国道交差点で軽トラックと出会い頭に衝突し、死亡した。

### 災害発生原因別



### 年別発生件数



# 新聞販売業における労働災害事例

## 事例1 見通しの悪い交差点にて、激突された

- 1.発生状況 被災者は、集金のためバイクで道路を走行中、信号機のない交差点で左側からきた乗用車と衝突し、全身を打撲し、死亡したものの。
- 2.原因
  - ・一時停止、左右確認が安全確認が不足していた。
- 3.対策
  - ・見通しの悪い交差点は、停止線で必ず一時停止し、その後徐行により交差点に近づいて、十分な左右確認（安全確認）を行うこと。



## 事例2 縁石に接触・転倒した

- 1.発生状況 被災者は、バイクにて朝刊を配達している際に、誤って路上の縁石に接触し転倒、頭部を強打したものの。
- 2.原因
  - ・運転方法・運転姿勢に誤りがあり、運転技術を過信していた。
  - ・対処方法に対する教育が不十分であった。
- 3.対策
  - ・安全運転に関する教育を繰り返し、計画的に実施すること。
  - ・新聞配達ヒヤリマップを活用し、危険箇所を洗い出し、安全運転等を周知徹底すること。



## 事例3 階段でバランスを崩し、転倒した

- 1.発生状況 被災者は、朝刊を配達しアパートの階段を降りていたところ、足を踏み外し、バランスを崩し転倒、頸椎を骨折したものの。
- 2.原因
  - ・階段を下りる際、手すりを使用しなかったこと。
- 3.対策
  - ・新聞束を持って階段を昇降する際は、出来るだけ片手（袋を使用する等）で持ち、空いた手で手すりを使用する、または壁際を昇降すること。





## 1. バイク運転中の交通事故を防ぎましょう

- (1) 交通事故の多くは、朝刊配達時のバイク運転中に交差点等で、自動車と衝突することなどにより発生しています。
- (2) その他、運転中の対向車線へのはみ出し、前方不注意、バランスを崩しての転倒・転落事故等が発生しています。

「交通労働災害防止のためのガイドライン」に沿った対策を進めましょう

1. 労働災害防止は事業者の責務です。事業者は、対策を積極的に推進しましょう。
2. 労働者は、事業者が行う安全対策に協力し、交通労働災害防止に努めましょう。
3. 事業者は労働者に対して、雇入れ時教育、日常の教育を徹底し、交通法規の遵守の徹底を図るとともに、交通労働災害防止のための知識を付与しましょう。
4. 事業者は、交通事故発生情報、ヒヤリ・ハット事例に基づき、新聞配達ヒヤリマップを作成し、配布・掲示、啓発等を行いましょ。
5. 事業者は、異常気象時には、走行の中止や安全な場所で一時待機する等労働者に適切な指示を行いましょ。



## 2. 配達 集金中の転落・転倒事故を防ぎましょう

転落・転倒災害防止のポイント

1. 事業者は、労働者に滑り止めのある靴を履かせて業務を行わせましょ。
2. 事業者は、時間に余裕のある配達計画を作成し、労働者が慌てることがないように業務を行わせましょ。
3. 階段の上り下りは、荷物等（配達中の新聞束も同様）を出来るだけ片手で持ち（袋を使用する等）、手すりを使用するかまたは壁際を昇降しましょ。
4. 事業者は、転落・転倒事故が発生した場所の情報、ヒヤリ・ハット事例に基づき、交通事故と同様にヒヤリマップを作成し、配布・掲示、啓発等を行いましょ。



## 危険予知（KY）訓練を実施しましょう

### 危険予知訓練のねらい

交通事故を招いているのは、運転者の不注意や安全確認が不十分であったなどの様々な要因が重なって発生しています。

交通事故を起こさない運転をするためには、常に危険を予知することが重要で、かつ、それを回避する運転をすることが必要であることを労働者一人ひとりに認識させましょう。

### 危険予知訓練のポイント（「かもしれない」運転の励行）

#### 1. 周囲の状況をよく見て、見えない危険を予知する

- ①危険を予知するためには、まず、周囲の状況をよく見て把握し、様々な情報をつかむことが必要です。
- ②特に、交差点進入時は、見えないけれども、その先に危険が存在している「かもしれない」ことを、考えるよう努めましょう。

#### 2. 道路を利用する自動車や歩行者などの特性をよく知る

- ①危険を的確に予知するには、道路を利用する自動車や歩行者など、それぞれがどのような動きをするのか知っておくことが重要です。

#### 3. 気象条件に潜む危険を知る

- ①雨や雪など気象条件により、同じ道路でも危険性は異なります。気象条件に潜む危険を知っておくことが重要です。

#### 4. 先の状況に目を配る

- ①走行中には、前方・後方の車等の動きに注意するとともに、その先の状況にも十分配慮する必要があります。

## 危険予知訓練シートの事例

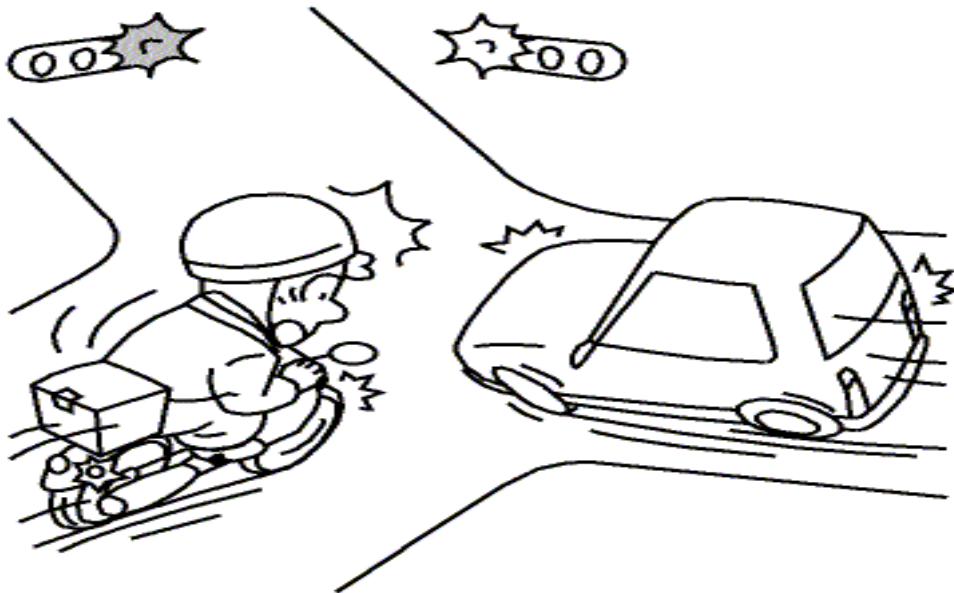
☆前のページのポイントを参考に、シートに記入してください。

作業の種類

新聞配達

ヒヤリ・ハットの状況

バイクで配達中、三叉路交差点で前方の信号が、しばらく青であったのでそのまま進入しようとしています。  
どんな危険が潜んでいますか？



どのような危険が潜んでいるか	どのような運転をすれば良いか
例 乗用車が信号を無視して走行してくる。信号が黄色になり、あわてて曲がろうとして操作を誤り乗用車と衝突する。	例 信号が黄色に変わるかもしれないので、減速し、左右を確認する。

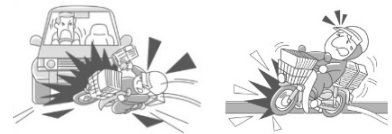
# 新聞配達ヒヤリマップ

を作成しましょう！！

交通事故の発生原因にはいろいろなケースがありますが、新聞配達中の「ちょっとした不注意」、「運転技術に対する過信」、「だろー運転」などにより、死亡災害が多く発生しています。辛うじて一命が助かるという場合もありますが、せき損等重篤な後遺症で苦しむこともあります。事故にならなくとも「ヒヤリ」とか「ハット」を経験したことは誰しも持っていることと思います。

そこで、このような交通事故を起こさないために、各販売店での労働災害防止対策（交通労働災害防止対策）の一環として、全員で新聞配達時における危険箇所の洗い出しを行い、その対策や注意すべき事項などを確認することが効果的です。

安全で健康な新聞配達ができるよう「新聞配達ヒヤリマップ」作りに積極的に取り組んでください。

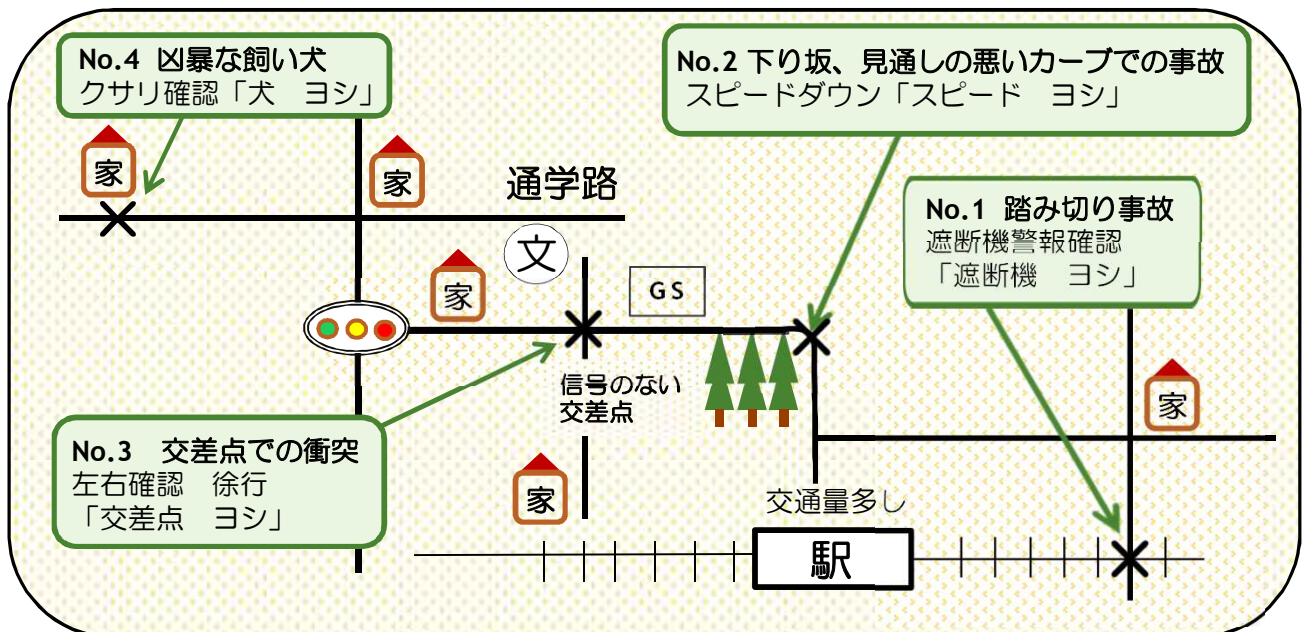


以下にヒヤリマップの作成手順と作成例を示します

項目	内容
① 新聞配達区域マップを配布	・マップを新聞配達員全員に配布する
② 配達経路を記入	・各人の配達経路は太い線 ・脇道は細い線 ・信号などの必要な地図記号を記入
③ ヒヤリ箇所を記入	・ヒヤリ箇所に×をつけ、番号で順番を記入
④ 対策と確認事項を記入	・作成したマップを新聞配達員全員に配布する

(注)季節、朝刊及び夕刊等で危険要素、危険場所も違うので、定期的に見直す必要があります。

## 新聞配達ヒヤリマップ（例）






# 新聞配達ヒヤリマップ

経路 自宅→新聞店→配達先 配達者氏名

所要時間 分 km 作成年月日

例 ヒヤリマップは、既存の地図を使用して、配達中にヒヤリとした場所や実際に事故を見かけた場所などに、「危険（赤）」、「要注意（黄）」などの印を付けるなど、できるだけ簡単に活用できるよう工夫しましょう。

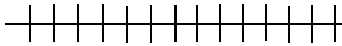
## 記号を入れてわかりやすく！


配達経路・・・   
 (出発点) (到着点)

道路地図（白地図）の上におくときは破線

十字路、三叉路・・・ 

信号・・・ 

踏切り・・・ 


駅・鉄道・・・ 

バス停・・・ 

川・・・ 

学校・・・ 

郵便局・・・ 

ガソリンスタンド・・・ 

駐車場・・・ 

「あわてず、焦らず、急がない」  
ゆとりを持った作業で  
今日も一日  
ご安全に！！

